

令和 2 年度使用小学校教科用図書
に関する調査報告書

教科名 生 活

(様式1)

教科用図書調査に関する報告書

教科	生活
----	----

発行者 略 称	発行者 番 号	教科書の 記号・番号	教科書名	調査結果の概要
東 書	2	生活 101 102	どきどき わくわく あたらしい せいかつ 上 あしたへジャンプ 新しい 生活 下	・大判(A4)のため、文字や画像等が大きく、児童の興味関心を引きやすい。 ・表紙裏には、D マークについて「保護者の皆様へ」により、家庭での活用が明記されている。 ・上巻 P18・19にあるように、育成すべき三つの資質・能力が吹き出しとイラストで具体化されており、学びが「見える」教科書となっている。 ・授業が主体的・対話的で深い学びとなるよう、吹き出しにより、学習の流れを示している。 ・巻末「かつどうべんりてちょう」では、生活習慣やインタビュー等のポイントがまとめられている。 ・「ポケットずかん」では原寸大のイラストでかかれており、切り離して持ち運べるため活用しやすい。 ・上巻 P34・35では、観察や記録する上での意識すべきポイントを提示している。 ・地域と関わる単元（下巻 P34・64・72）では、社会科との接続を意識し、身近な地域の空間認識を広げていくイラストを用いている。また、地図的な標記ではないため、児童が理解しやすい。 ・単元名の文字が大きいため目を引き、何を学ぶのか、児童に分かりやすい。 ・様々な人種や車いすに乗った人がイラストに登場し、多様性への配慮がなされている。 ・安全や防災など様々な内容を扱っている。 ・観察や発表等、ICT 機器を活用した授業を意識した写真やイラストが多数ある。

発行者 略 称	発行者 番 号	教 科 書 の 記号・番号	教 科 書 名	調 査 結 果 の 概 要
大日本	4	生活 103 104	たのしい せいかつ 上 なかよし たのしい せいかつ 下 はっけん	・表紙の凹凸や上巻 P 8 のカメラ、P 6 2 ・ 6 3 のモノクロ写真といった、触覚や視覚に訴え、児童の意欲を高めるしかけがある。 ・上巻 P 6 2 ・ 6 3 の写真は、P 6 4 ・ 6 5 の写真と比べる際、次ページにあることやトリミングされていることから難しさがある。 ・他教科との関連が分かりやすく、マークで示されている。 ・上巻 P 5 6 ・ 5 7 のように、絵のタッチに統一感がないページもある。 ・上巻スタートカリキュラム P 2 のように、キャラクターがマンガのようで、児童が同化しにくく、また注視すべき写真に目が行きにくい。 ・児童の感覚や世界を広げる手段として、上巻 P 5 1 のように、オノマトペを多く採用している。 ・右端にある「せいかつことば」は、語彙を増やすことに役立つが、難しい言葉が多い。 ・たのしいせいかつウェブには、工作の手順しかなく、活用しにくい。 ・ICT 機器を活用した授業の様子を示すイラストや画像が少ない。 ・文字が小さい。また、ワークシートに書かれた字が薄く、見づらい。 ・上巻 P 4 8 のように、写真や絵と文字が重なっており、見えづらい。 ・「がくしゅうどうぐばこ」には、様々な内容が集められており興味深いが、下巻 P 1 1 2 ・ 1 1 3 にある透明シートや P 1 3 4 ～の「せかいのなかま」は、活用方法が難しい。

発行者 略 称	発行者 番 号	教 科 書 の 記号・番号	教 科 書 名	調 査 結 果 の 概 要
学 図	1 1	生活 105 106	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ 上・下	・「まなびかた ずかん」(上巻 P114～・下巻 P104～)には、自己評価の欄があり、自己決定できる子ども、他者との関わりの中で変容できる子ども、自分の成長を自覚することのできる子どもを育成する構成となっている。 ・単元名や小単元の見出しに「わたしの」(上巻 P16)「わたしたちの」(下巻 P4)という言葉が付いており、児童に自分たちが主体であるという意識を持たせる工夫がある。 ・本文やワークシートの例示文(下巻 P49)の文字が小さくて薄いため、読みづらい。 ・例示のワークシートには教師の朱書きコメント入りのものが使われているが、児童にとって必要かどうか疑問が残る。 ・「ものしりノート」(上巻 P46 下巻 P42 など)には例が多くかかれており、児童の意欲を高めることができる。 ・1つのページに写真やイラストなど、非常に多くの情報が提示されており、児童の意識や学習のねらいがそれてしまう可能性があるページもある。 ・様々な人種や車いすに乗った人がイラストに登場し、多様性への配慮がされている。 ・遊び方や種の蒔き方などの動画が二次元コードから見ることができる。

発行者 略 称	発行者 番 号	教 科 書 の 記号・番号	教 科 書 名	調 査 結 果 の 概 要
教 出	1 7	生活 107 108	せいかつ上 みんな なかよし せいかつ下 なかよし ひろがれ	・生活科で育成する力をサイコロで示しており、子ども・教師・保護者等見る人全てが学習のめあてをつかみやすい。 ・ウェビングやXチャート、Yチャート、KJ法など児童の思いをつなぐ方法が多数紹介されている。しかし、付箋の色分けをする(下巻P63)など、例示されている内容が高度である。 ・「ひんと」コラム(上巻P32～41)には、繰り返し、さわる、むすびつける、くらべるなど、多様な学習活動へとつなげるヒントが書かれているが、内容が高度である。 ・多様な人種の子どもが写真で登場し、多文化共生社会への配慮がなされている。(下巻76) ・例示のワークシート(下巻P96)等の内容が、3年の理科や社会科の知識・理解を意識したものとなっており、やや高度で難しい。 ・下巻P29のワークシートは、地図のようになっており、児童が理解するのは難しい。 ・「はってん3年」のコラムでは、社会科や理科の学習を意識する内容となっているが、方位(下巻P29)や頭・胸・腹(下巻P51)といった知識に重点が置かれている。

発行者 略 称	発行者 番 号	教 科 書 の 記号・番号	教 科 書 名	調 査 結 果 の 概 要
光 村	3 8	生活 111 112	せいかつ 上 まいにち あたらしい せいかつ 下 だいすき みつけた	・各単元が「計画する」「活動する」「振り返る」の3段階、ホップ・ステップ・ジャンプで構成されている。単元の最初には、3つの段階における内容を短い言葉で書かれており(上巻P86)、学習のねらいや流れが明確で、見通しをもって学習できる。 ・ワークシートが小さく、斜めになっている(上巻P41)。また、ワークシートの例示が少ない。児童が気付きを表現していく上での配慮が少なく、言語活動に結びつけていく上で、困難がある。 ・単元名と活動内容が直結しておらず(上巻P14～)、どのような活動を行っていくのか理解しにくい。 ・挿絵が多く、写真が少ない。また、吹き出しの書体が丸文字であるなど情緒的であるため、児童は絵本のような印象を持つ可能性がある。 ・写真が小さく、何をしているのか、何の写真なのかがわかりにくい(上巻P16・17)ので、児童のやってみようという意欲につながりにくい。 ・「どうすれば」のコラム(上巻P49・77など)は白抜きになっており、他の部分とは異なるため違和感を感じる。 ・二次元コードにより、季節の資料(上巻P112)や交通安全の資料(上巻P25)、道具の使い方(上巻P81)を見ることができる。

発行者 略 称	発行者 番 号	教 科 書 の 記号・番号	教 科 書 名	調 査 結 果 の 概 要
啓林館	6 1	生活 113 114	わくわく せいかつ上 わくわく せいかつ下	・ どの単元も、単元導入「わくわく」、主な活動「いきいき」、表現活動「ぐんぐん」の3段階で構成されており、活動の流れが明確である。 ・ KJ 法やYチャートといった、児童の考えをまとめる方法が取り上げられている。しかし、例示されている活動がやや高度である。 ・ 脱皮や変体する様子(下巻 P 5 0 ・ 5 1)といった、児童が普段では目にすることが難しい貴重な写真が多い。 ・ 説明が丁寧であり、具体例が豊富でパターン化されていて分かりやすいが、思考が固定化される可能性がある。 ・ ワークシートの具体例が多く、ページに記載されており、児童が感じたことを表現する上で参考にしやすい。 ・ 小単元の見出しが「がっこうのひととはなしてみよう(上巻 P 1 0)」や「町の人と話してみよう(下巻 P 3 4)」といった、人と関わることを目的としていることがよく分かる言葉になっている。 ・ タブレットを活用して発表する様子(上巻 P 6 4)など、ICT 機器を使った授業の展開を画像やイラストで多数紹介している。 ・ 見出しの文字が大きく、目に飛び込んできくため、学習内容を児童が理解しやすい。 ・ 教科書の右下には次時の学習へとつながるめくりの言葉があり、見通しがつきやすい。 ・ 画像の大きさがほどよく、切り抜き方法に統一感があるため、見た目が整い児童の意識が散漫になりにくい。 ・ 写真やイラスト、文章や吹き出しといった1ページの情報量がほどよく、注視すべき場所に目が行きやすい。 ・ 吹き出しやめくりの言葉により、説明が多く授業の展開がよく見える教科書である。一方、流れが固定化し、新たな発想が生まれにくい可能性がある。

発行者 略 称	発行者 番 号	教科書の 記号・番号	教科書名	調査結果の概要
日 文	1 1 6	生活 115 116	わたしとせいかつ 上 みんな なかよし わたしとせいかつ 下 ふれあい だいすき	・「気付く」「深める」「つなげる」の三つを基本方針とし、それに基づいた「学習のめあて」が各見開きの左下に明示されており分かりやすい。 ・車いすに乗った人や多様な人種の人がイラストに描かれていたり(下巻 P 7 6・7 7)、幼稚園教諭が男性であったり(下巻 P 7 9)といった日常における多様性への配慮が随所に見られる。 ・下巻 P 1 3 5 には点字が記載されており、児童の興味を引く内容となっている。 ・「つなげる町のすてき(下巻 P 78・79)」では、性別や年齢構成のバランスがよく、様々な人が町で過ごしていることがよく分かる。 ・よい表情で収穫する児童の姿(下巻 P 22・2 3)や普段目にしない自然の様子(上巻 P 5 9)といった大変魅力的な写真が多い。 ・ワークシートが小さく、また斜めになっている(上巻 P 4 5)ため、読みづらい。 ・「ポケット図かん(下巻 P 3 8・3 9・9 0～)」には、多くの例が記載されている。しかし、文字がやや小さく、1 ページの情報量が多い。また、作業を説明する文がイラストの上部や下部など統一されておらず、見づらい。 ・例示の学習方法が高度である。 ・「ふりかえる つなげる(上巻 P 5 7・1 1 7)」では、学びを日常生活とつなげることができるように、具体的な場面を示している。 ・「きれいな はなを さかせたい(上巻 P 3 7～4 4)」の単位では、ページを折ることで植物が生長していく様子を比べることができる工夫がある。しかし、現状においてよく育てられているアサガオの画像はない。 ・「ちえとわざのたからばこ(上巻 P 1 1 2 4～下巻 P 1 1 3～)」では、学習に活用できるインタビュー方法や考え方、観察の仕方などが分かりやすくまとめられている。

教科用図書調査に関する報告書

生活		観点別評価		「◎」優れている					「○」標準的			「△」やや劣る	
選定の観点	選定の視点	東書	大日本	学図	教出	光村	啓林館	日文					
学習指導要領との関連	1	学習指導要領に示されている生活科の目標達成に結びつく内容になっているか。	◎	○	○	○	○	○					
	2	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた工夫がされているか。	◎	○	○	○	◎	○					
	3	「知識及び技能」の習得と「思考力・判断力・表現力等」の育成をバランスよく図るための工夫がされているか。	◎	○	○	○	◎	○					
	4	言語活動の定着を図るための配慮がなされているか。	◎	○	○	○	△	○					
内容	1	地域の人々、社会及び自然を生かすとともに、それらを一体的に扱う学習活動が行えるような工夫がなされているか。	○	◎	○	○	△	○					
	2	身近な人々、社会及び自然と直接関わる活動や体験が重視された内容になっているか。	◎	○	○	○	△	○					
	3	地域の人々、社会及び自然に関する活動を通して気付いたことや楽しかったことを多様な方法で表現することができる工夫がなされているか。	◎	○	○	○	△	◎	○				
	4	表現し、考えることを通して、気付きを確かなものとしたり、気付いたことを関連づけたりすることができる工夫がなされているか。	○	○	○	◎	△	◎	○				
	5	「見附ける」、「比べる」、「たとえる」、「試す」、「見通す」、「工夫する」など多様な学習活動が行えるような工夫がなされているか。	◎	○	○	◎	○	◎	○				
	6	発達段階や特性に応じて、コンピュータなどの情報機器を適切に活用できる配慮がなされているか。	○	△	○	◎	○	◎	○				
構成・分量	1	内容の量と学習時間が適切に配当されているか。	◎	○	○	○	○	◎	△				
	2	児童の発達段階に即し、系統的、発展的に構成されているか。	◎	○	○	○	○	○	○				
表記・表現	1	表記や表現について、文書や挿絵、写真等の使用が適切であるか。	◎	△	○	○	△	○	○				
	2	文字の大きさ、字間、行間などは適切であるか。	◎	△	○	○	△	◎	○				
	3	ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、色の使用、紙面の構成などについて、配慮されているか。	◎	△	○	○	○	○	○				